

2006年10月6日～9日の発達した低気圧による災害に関するアンケート

主な調査結果について(佐呂間町)

気象庁札幌管区气象台・北海道開発局・北海道・岩手県立大学総合政策学部牛山研究室

過日は「2006年10月6日～9日の発達した低気圧による災害に関するアンケート」にご協力をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、274件の貴重なご体験について伺うことができました。結果は、今後の防災対策に活用していきたいと考えております。

ここでは、結果の中から特に重要と思われるものをご紹介します。なお、詳細な集計結果につきましては、札幌管区气象台ホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp/>)からご覧いただくことができます。

公開されている雨量や水位の情報

国土交通省の「川の防災情報」というホームページでは、佐呂間別川の永代、中佐呂間の水位をはじめ、多くの観測所の雨量や水位の情報が公開されています。災害時の行動を判断する上で役に立つ情報ですが、「見ることができることは知っていたが、見なかった」という回答が少なくなかったことから、いざというときは、なかなか利用できないことも考えられます。

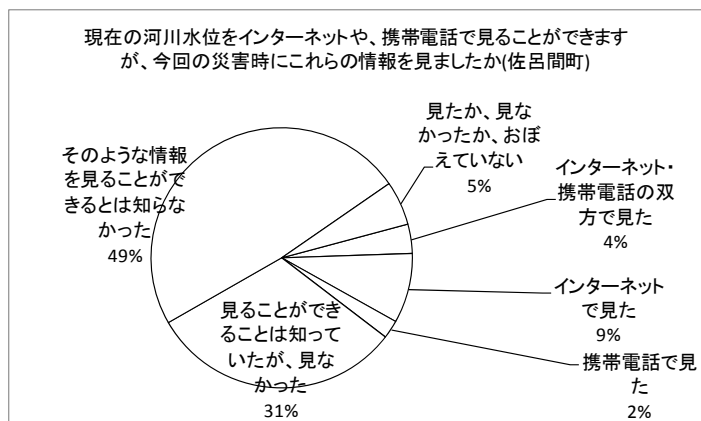
地域で情報を集める分担をあらかじめしておくともよいかも知れません。情報の読み取り方が分からないときは、气象台などに遠慮なくお問い合わせ下さい。

川の防災情報(パソコン)

<http://www.river.go.jp/>

川の防災情報(携帯電話)

<http://i.river.go.jp/>



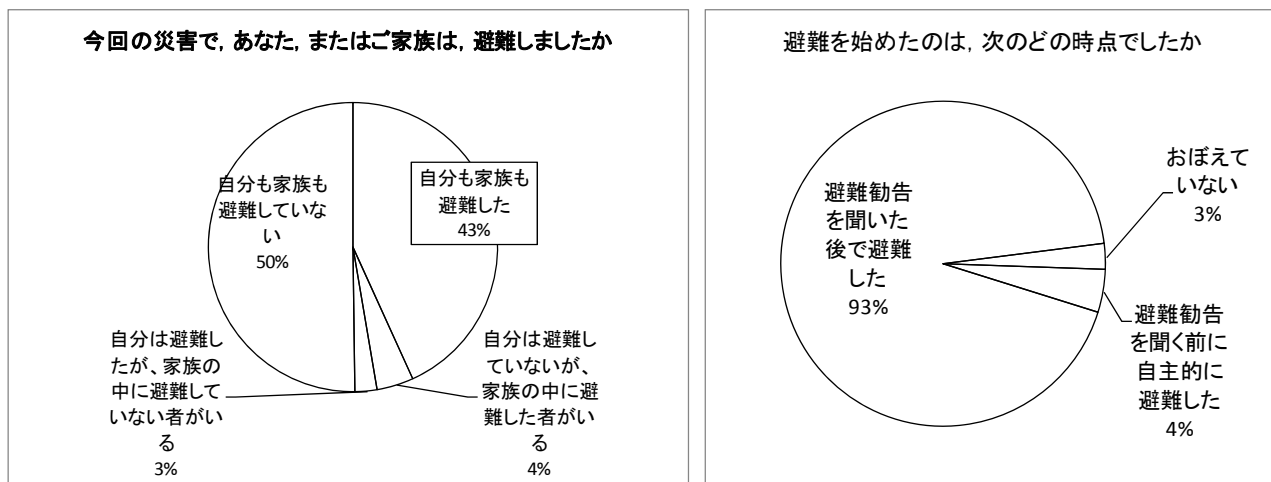
高かった避難率を今後に生かす

佐呂間町では、回答世帯(ほとんどが避難勧告対象の世帯です)のうち50%が何らかの形で避難をされたという結果になりました。過去の同様な調査では、避難勧告世帯のうち、実際に避難した世帯は数パーセント程度ということが少なくありませんから、今回の避難率はかなり高かったと思われます。

避難したタイミングは、ほとんどの方が「避難勧告を聞いた後」と回答されました。

今回の災害では、雨の降り方があまり集中せず長く降るタイプであったこと、比較的早めに避難勧告が出されたことなど、避難のための条件がやや恵まれていた面がありました。避難勧告は、浸水などが

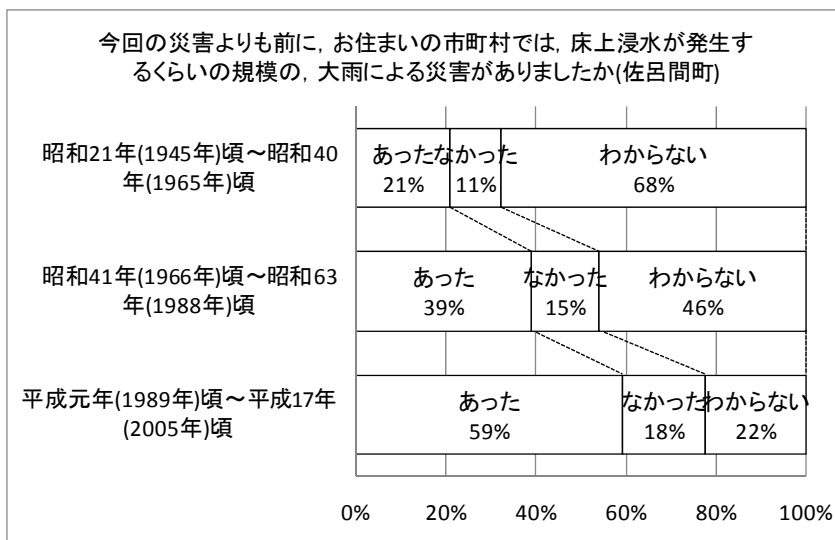
激しくなった後で出される場合もあります。また、無理な避難により、かえって人命が損なわれる場合もあります。早めの行動を心がけると共に、各地区、各世帯に応じた避難の計画を日頃から考えておくことも重要ではないでしょうか。



過去の災害に学ぶ

佐呂間町では、比較的被害の大きかった例に限っても、過去に下の表のような大雨による災害に見舞われています。

防災施設の整備などにより、以前よりは大雨による災害は起こりにくくなってはいますが、過去に水害に見舞われた地域は、もともと水害に対する危険性を持つ地域であることに変わりはありません。それぞれの地域で、過去にどのような災害が起こったのかを知っておくことは、今後の災害に備える上でいろいろと役に立つものと思われま



佐呂間町の過去の主な大雨による災害

年月日	被害状況
1941/9/6	佐呂間別川の氾濫により浸水戸数 920 戸，中佐呂間で 4m の増水
1971/10/30～11/1	低気圧による豪雨。佐呂間別川流域などで床上浸水 245 棟，床下浸水 400 棟
1992/9/10～12	台風 17 号による豪雨で佐呂間別川など氾濫。床上浸水 52 棟，床下浸水 150 棟

国土交通省河川局「水害統計」、佐呂間町百年史などによる

今回の調査や防災気象情報についてのお問い合わせ先

札幌管区气象台総務部業務課防災調整係 電話：011-611-6158